

水俣学への招待：
水俣病事件の歴史と現在

熊本学園大学水俣学研究センター
花田昌宣

1 本日本お伝えしたいこと

人類の経験した公害，水俣病の負の遺産（失敗の経験）に学び，将来に活かす

- ・水俣病の 60 年の歴史を学びなお残されている課題を理解すること：被害者の 60 年の苦難の歴史
- ・水俣病という公害が，学校の中で習った過去の問題ではなく，いまなお終わっていないこと
- ・ひとりひとりの暮らしのあり方を考え直すきっかけを得ること

2 自己紹介

熊本学園大学 水俣学研究センター長
水俣病との出会いは 1974 年

3 水俣学の経験と 2016 年 4 月熊本震災

熊本震災のただ中から：被災の現実
災害は社会のあり方を表す

4-7 熊本学園大学避難所運営について：震災直後の緊急対応

8 水俣病 60 年の意味：水俣病 60 年 歴史の重みと今日の課題

水俣学の構築と私達の取り組み
現場に学ぶ
専門家主義を排し、市民・研究者の協働
学問の「中立性」と被害民を真ん中に

9 なぜ、今、MINAMATA

正式発見から 61 年を経過している。

しかし 水俣病患者の苦悩と苦闘は続いている

風化させないために、今、検証して未来へつなぎたい。

10 人権教育の現場では 皆さんがこれまで聞いてきた話

水俣病授業のパターン

1. 水俣病はなぜ起きたか
2. 被害者の苦悩に耳を傾けよう
3. 水俣病の経験を生かそう

11-14 水俣病とはなにか

それまで人類が経験したことのない公害事件

[環境汚染による公害病]

[胎児性水俣病] 胎盤を通して汚染、水俣病という障害を持って生まれてくると言う被害がもたらされるという未曾有の経験もしました。

水俣とはどこにあるか:県庁からも遠い

16 水俣病の発生と被害の拡大

- ▶□ チッソ（株）による有機水銀を含む有毒廃水の無処理放出
- ▶□ それによる海の汚染、
- ▶□ 魚貝類の汚染と流通、摂食
- ▶□ 行政の放置：規制しなかった
- ▶□ 健康被害と差別の目

17 チッソの百間排水口の水銀ヘドロ（1970 年代）

18 まず猫が発症した 1954 年

19-21 水俣病発生の公式確認 1956 年

最初に報告された患者さん、田中実子さん

22 1956 年 5 月 1 日に報告された患者自宅

23 胎児性水俣病患者：この子は宝子です

24-25 貧困と差別 一隠れる患者一

26 食物連鎖と社会的食物連鎖

汚染と被害はどのように広がったのか

27 チッソはなぜ廃水を無処理で流したか（1932年～1968年）

漁民、漁村への差別の目、地方への差別の目

28 「原因究明」の虚構と被害の拡大

▶□ 原因究明という名前の原因隠し

29-33 被害民の暮らしと闘いの足跡

貧困と見舞金契約

1959年12月

患者家族の工場正門前座り込み

34 水俣病事件の重要な時期：何が争われていたか 1956年→1959年

35-43 水俣病患者・住民の暮らし

44-46 水俣病患者のたたかい（1969年～）

チッソ本社前座り込み、水俣病訴訟へ（1969年提訴）

水俣病についての行政の責任（2004年10月最高裁判決：関西訴訟）

47-48 水俣病被害者数 2017年4月末現在

49 認定申請者数の推移

現在も水俣病の被害があるのか、なぜ増え続けるのか

⇒ 差別と偏見をおそれ隠れている

50 水俣病に対する差別と潜在患者

病者に対する差別

差別されてきた水俣病患者

結婚、就職、

51 水俣病に対する差別と偏見

⇒、2010年6月のサッカー事件

水俣病の映像、水俣病で何を習ってきたか

51 水俣病を差別と人権の課題として考える

水俣病に対する差別の現状

◇ 水俣病患者に対する見下し、そして水俣病に対する忌避感

◇ 病者に対する差別

結婚、就職での差別

「学校に行きたくなかった」

◇ 今日の「水俣病」に対する差別と偏見

52-55 水俣病差別発言事件

起きたこと：サッカー大会での水俣病に関する差別中傷

水俣病を見る眼こそが問われている

誰が中傷されているのか・何が差別されているのか

水俣出身者なのか、水俣病患者なのか

サッカー事件の経緯と反省

56-57 過去の失敗を将来に活かすために：いのちの尊厳

▶ いのちを大事にすること。いのちとは人の人生そのもののこと。ともに分かち合ういのち、ともに生きるいのち。いのちの尊厳には上下はない。

▶ しかし時代の波に巻き込まれて、いのちの価値を見失うときに、公害は

起きるのだろう。

58 真の文明とは田中正造と足尾鉍毒事件

59 本年度の水俣学講義

水俣学の趣旨

現場に学ぶ、学問分野を越境する、専門を超える

今年の講義の構成

社会運動としての水俣病 10/08 谷洋一（水俣病被害者互助会事務局）

被害者の証言 11/9 吉永理巳子（水俣病を語り継ぐ会）

法律と公害 10/19 大川一夫（弁護士）

水俣病の医療と医学 11/16 藤野紘（医師）、12/21 下地明友（学園大学）

メディアの証言 11/30 大木真美（KKT ディレクター）

表現活動：10/12 平野恵嗣（共同通信記者）

公害教育：12/14 安藤聡彦（埼玉大学）

漁業：01/11 井上ゆかり（熊本学園大学水俣学研究センター）

胎児性水俣病：12/07 田尻雅美（熊本学園大学水俣学研究センター）

失敗の反省と将来の課題：01/18 宮北隆志（学園大学）

水俣学の課題と展望：01/25 花田昌宣（学園大学）

60 水俣病患者の上村好男さんの言葉

▶□ 「歴史を語るに、郷土というものには冷たい。過去を知らない人生は寂しいものであります。」

61-まとめ

水俣学アーカイブをみよう

<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/marchives/>

水俣に学び、自分を振り返ろう。